

# 和歌山

地域面3ページ

## 和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5  
 和歌山第一生命ビル4階  
 TEL073(431)1411  
 FAX073(433)0650  
 wakayama@mainichi.co.jp

### 【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】 073(423)9291  
 【購読問い合わせ】 0120-468012

星の占い  
 マーク矢崎  
 12日



# まずは大斎原へ(田辺市本宮町本宮)

絵と文・熱田親熹 題字・熱田秦華

## 熊野古道

みちのくさき記

①

少年時代を千葉の房総半島で過ごした私には、2府4県から成る関西圏は六つのそれぞれの文化を持ち、他圏に見られない魅力を感じている。中でも和歌山には親しみを感じ、これまでも、熊野三山、森林キャンプ、温泉めぐり、スケッチ旅行などで度々訪ねている。今年是世界遺産登録10周年行事が自白押しで、眠っていた筆とペンが目覚め、これまでの訪問地を線で結んでみたくなった。「熊野古道みちのくさき記」と題して、日本のこのころの故郷を訪ねながら昔を想い、読者のみなさんとこれからを考えてみたいと思っている。

今回は春の例大祭神 本社鳥居前(解散)。明されていた。「人心点」との説明に心が引事を随行取材するため 出発点の本宮大社に が神と自然から離れつ き締まった。更に歩をに、熊野詣のゴールと は、早めに着いたので、 つある今日、次世代に進めると洪水で流出した熊野三山の中心地 旧社地である大斎原を 日本心(精神・魂) た社殿として二つの石・本宮大社を訪ねた。 これまでも本 が復活することを祈念 祠が祭られていた。この例大祭は一年の五 宮大社の鳥居前までは して、皇紀2661-2 ことで神事が行われるこ穀豊穰を願う春祭り 何回も足を止めていた 001)年を迎えて、 とにより神が降りてこで、山場が4月15日、 が、「明治22(1888 熊野の大神のご神徳を られ、人と神との合掌その宵宮に当たる13日 9)年の熊野川の大洪 得て、新たな21世紀が が行われる神聖な場所の湯登神事と宮渡神事 水で流出されるまで、 神と自然と人が共にあ であることを知った。に立ち会うことにし 本宮大社が祀られてい るよう、大斎原が発信 現代の私達は経済的た。参加者は宮司と神 たところ」の説明で聞 基地になるべく、日本 な富を得たが、同時に

## 神道の原点 心引き締まる

職、氏子、神楽人(笛、太鼓)、稚児、氏子総代など30人あまりで、 これら一行が歩く神事コースは、大社本殿↓湯峰温泉(湯垢離、湯粥、祭典)↓月見丘神社(大日越え)↓旧社地入り口(湯登神事終了、休憩)大社本殿↓旧社地・大斎原(祭典)↓真奈井社(祭典)↓

最大の鳥居建立の運びとなった(抜粋)。鳥居をくぐると、境内は神聖な場所となり、「神は土地ごとに存在して、その区域を治め、稲の恵みや自然の恵みをもたらしてくる。私には熊野古道をみちのくさしつつ、歩を進めることに、自然の生態系に生かされている熊野古道が私達に何を警告しているのかを学ぶことができた」と願っている。これから始まる神事の随行記は次回にまわしたい。